

平成24年9月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1	開催日	平成24年9月25日（火曜日）		
2	開会及び閉会	開会	16時00分	
		閉会	17時06分	
3	出席委員	委員長	渡辺勝志	
		委員	塩田澄子	
		委員	曾田佳代子	
		委員（教育長）	山脇健	
4	会議出席者			
	職名	氏名	職名	氏名
	教育次長	水野博宣	教育次長	橋本拓治
	統括審議監	鈴木康義	審議監（学校教育担当）	福島治子
	審議監（生涯学習担当）	直本正明	教育企画総務課長	長瀬尚樹
	指導課長	天野和弘	指導課教育支援担当課長	山崎克磨
	保健体育課長	三宅修司	生涯学習課長	丸川康一
	文化財課長	乗岡実		
	事務局（教育企画総務課課長補佐）	高木宏	事務局（教育企画総務課主任）	宗田朋子
5	議題及び結果			
	第25号議案	岡山市指定文化財の指定について	原案可決	
	第26号議案	平成25年度以降の学校給食の運営方針について	原案可決	
6	教育長等の報告	[平成24年8月18日（土）～平成24年9月14日（金）]		
	8/3～22	通学路合同点検	指導課	
	8/18	埋蔵文化財講座「夏休み子ども考古学講座（勾玉づくり）」	文化財課	
	8/18～19	おかやまイングリッシュビレッジ	生涯学習課	
	8/29	第2回危機管理担当者研修会	指導課	
	8/29～9/10	韓国政府日本教職員招聘プログラム参加	指導課	
	8/9	家族ふれあいフェスティバル	生涯学習課	
塩田委員 教育支援担当課長	○ 通学路合同点検について。問題箇所があったか。あった場合の対応策は。			
	○ 通学路合同点検は8月の初旬から中旬にかけて14日間行った。学校から報告のあった247か所の危険箇所候補地の内、対応を始めているものを除き、最終的には183か所まで実施した。その危険箇所を警察、道路管理者、保護者、地域住民、学校、教育委員会の合同で点検した。白線が消えかかっているところの修復や、信号機やガードレールが必要なところなどが見つかри、関係機関が今後、対応を検討していくことになっている。また、国へも状況を12月ごろに報告する予定である。			
塩田委員 教育支援担当課長	○ 合同点検は、毎年実施しているのか。			
	○ 学校では、通常でも通学路の点検をするが、京都府亀岡市での事故を受け、国から合同点検の実施要領が出されたので点検を実施した。			
委員長	○ 亀岡市の事故は大人も一緒にいたにも関わらず、大人も巻き込んで起きた悲惨な事故だが、このような場合はどのように改善していけば良いのか。ルートを変えるしかないと思うが。			
教育支援担当課長	○ 場合によっては通学路を変更することもある。			
委員長	○ そういうことも含めての対応ということか。			
教育支援担当課長	○ そのとおりである。			
教育長	○ 新聞に（点検か所が）6万か所と出ていたが、この数字は（各教育委員会が）報告したデータを基にしての数字か。			

教育支援担当課長 教育長	○ そのとおりである。 ○ 白線がないところや信号機のないところなど、道路管理者や警察の協力をいただかないといけないところがあるのか。
教育支援担当課長	○ 当然そういう場所もあるが、今年度予算に計上していなかったり、土地買収が絡んだりなど、いろいろな問題がある。すぐに改善するのは難しいところもあると聞いている。
委員長	○ 私も毎日途中まで子どもの登校について行くが、道がカーブしていて横断歩道が見えにくい場所がある。横断歩道に立っていても車は止まってくれない。子どもが見えていても車が止まってくれない。大人だと誰も止まらない。交通マナーの問題もあるのではないかと思う。
教育長	○ 旗を持った交通指導員がいれば車は止まってくれる。運転手のマナーの問題であると思う。
委員長	○ 止まろうという気がない。子どもが急いで飛び出ると危ないと思って途中までついて行っている。
曾田委員	○ 岡山の人のマナーが悪いのか。
委員長	○ そのような気もするし、全国的にも横断歩道に人が立っていたときにどれだけ人が止まるのか疑問である。教習所では習っているはずだが。
委員長	○ 他にはないか。
曾田委員	○ 危機管理担当者研修会に関して。8月初旬に実施した気仙沼の教育委員会の方が来られたものと対象は同じか。また内容を教えてほしい。
教育支援担当課長	○ 今回の対象は各学校の危機管理の担当者。主に教頭。
曾田委員	○ 8月に、校園長会の前に危機管理研修会があったと聞いたが。
橋本次長	○ 教育研究研修センター主催の校園長対象の研修会に、震災当時、教頭の職にあり、現在教育委員会に勤務する気仙沼の方を招き、話をしてもらった。
審議監(学校教育担当)	○ 午前中に学校の一般の教員の研修会があった後、同じ講師の方で、校園長が講習を受けている。
曾田委員	○ 危機管理講習は、一般の教員から校園長まで多くの人を受け、かなり層が広がったということか。
教育支援担当課長	○ そのとおりである。
曾田委員	○ そういった講習を受けて、学校の避難訓練や2学期の防災訓練など実践で具体的に変わりつつあるのか。
教育支援担当課長	○ 緊急地震システムを使った、音声を使った避難訓練をはじめしているところが増えてきている。今年度、音声を録音したCDを全学校に配布しているので、それを使った避難訓練である。また、これまでの火災を想定した訓練から、津波などに災害の幅を広げた避難訓練を実施しているところが増えてきた。中には、幼小中合同で実施している学校も出てきた。
曾田委員	○ そうであってほしい。今までは、避難訓練といっても意識が薄かったかも知れないので、実際に気仙沼の方の話を聞いたりすると真実味が伝わって良い。ただ、聞くだけではいけないので、(気仙沼市に視察に行った)西大寺中学校の先生や子どもたちのように、何回も様々な機会があれば、啓発できていると思う。
委員長	○ 西大寺中学校で(気仙沼市の被災者の体験談を基にした)演劇をするというのが新聞に出ていた。
担当課長	○ すでに演劇は終わっている。前日に新聞に出て、子どもたちはすごい劇をしたそう。感動的で、涙を誘う迫真の演技だった。実際に現地に行って、話を聞き、その中でストーリーを作ってやったということで、とてもすばらしかったと思う。
委員長	○ 視察に行った成果が出ているようだ。
教育企画総務課長	○ 先ほどの危機管理研修についての補足。午前中の教育研究研修センター主催の研修の対象者は、10年目研修の教員と希望者であった。
塩田委員	○ 韓国政府日本教職員招聘プログラム参加について。ロンドンオリンピックが終わった後で、ちょうど問題があった(日本と韓国の領土問題が起きた)時期だと思うが、その影響はなかったか、また、こういったプログラムでどういう成果があったのか。
指導課長	○ 8月29日から9月7日までソウルや釜山を訪れた。小学校・中学校・高校教諭各1名、指導課指導主事1名が参加した。内容は、韓国の最新の教育政策・現状の視察、日本の文化やESDの紹介、ESDをテーマにした意見交換、世界遺産の見学、ホームビジット。心配していた韓国と日本との情勢の影響は全くなかったと聞いている。かなり友好的に迎えてくれたし、特に支障も無く、反日という感じではなかったと聞いている。
委員長	○ 当時、ちょうどこの頃が一番心配していたが、もしかすると市民レベルではそ

教育長 曾田委員	<p>んなに影響は無いのかも知れないし、そうありがたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 時に、国際交流に支障がでる場合があるが、今回はそうではなかったようだ。 ○ 家族ふれあいフェスティバルについて。3, 500人も参加しており、すごいことであるが、内容はどうだったのか。
生涯学習課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 連合婦人会、少年自然の家、教育委員会が主催するもの。小学校低学年以下の子どもを持つ家族を中心に、ペーパークラフトや、しおり、紙トンボなどを自ら作り、日応寺の自然の森の芝生広場で遊ぶ。家族での触れ合いを目的とした行事で、多くの方が参加している。
曾田委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ このような場を啓発の場として活用できないか。無料と思われるかもしれないが、それでもここに来ている保護者は、子どもが健やかに育ってほしいと思っているはずだ。教育委員会がやっている施策、市民協働や地域協働、食育などと将来的に絡められたら横断的に事業ができるのではないかと思う。これだけの人が来てくれるのもったいない。保護者への啓発が大切である。子どもへは色々なメニューが提供されているが、保護者への啓発ができないか。いじめや不登校など不安がある中で、何かできることを活用すれば良いと思う。
生涯学習課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同じようなイベントで11月に岡山ドームでのわくわくこども祭りがある。男女共同の関係など、市も参加するので啓発している。今回の行事は親子のふれあいが目的。ドームで開催するものについてはもう少しバージョンアップしたような内容でやっている。
曾田委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ あまり企画に時間を掛けず、場の提供ができれば良い。教育委員会の仕事が軽減できるようなことで、効果があるようなことは横断的にやってほしい。これだけの人が集まれば、保護者の意識も変わることがあるのではないか。子どもが楽しむだけでなく、親への啓発になるような。本来の事務事業の目的とは違うかも知れないが、もう少し考えられることも将来的にはあると思う。
生涯学習課長 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 承知した。 ○ この間の議会で、数字だけ、参加人数だけでは意味がないという点検・評価報告書を見ての質問があった。このような場に参加して、意識を持って帰る。もともとこのような場に来る人は、子育て意識が高い人が多いと思うが、さらに深めて帰ってもらい、まわりに広めていくという成果が出るような工夫をしてほしい。
委員長 生涯学習課長 委員長 生涯学習課長 塩田委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ イングリッシュビレッジは2回目か。 ○ 教育委員会と中国学園大学の共催は今回初めてである。 ○ 前回報告したものの2回目か。 ○ 事業をするという報告はしたが、実施後の報告はしていない。 ○ イングリッシュビレッジは有意義だと思うが、参加した子どもたちの活動が継続できるようなもの、再度、集うチャンスはあるのか。また、感想があれば教えてほしい。
生涯学習課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 参加した子どものアンケートでは、「いい勉強になった」「ためになった」という意見が7～8割。今後も参加したいと思った子どもがほとんどであった。「もっと英語を頑張っていきたい」という感想など、良い面での効果が出ている。
教育長 委員長 生涯学習課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 後で意見がまとまったデータを見せてほしい。 ○ 参加者の男女比は。 ○ 参加者27名の内、5年生女子10人、6年生女子6人、合計16人が女子であった。
委員長 文化財課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 勾玉づくりについて報告を。 ○ 夏休みに、古代のアクセサリーである勾玉づくりを親子で体験してもらう行事。単に作るだけでなく、埋蔵文化財センターの職員が歴史の説明をしながら指導することで、古代のロマンを感じながら体験してもらう好評のイベント。
委員長 文化財課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定員いっぱいということか。 ○ 定員数が少ないのは、班に1人職員がついて解説・指導しながらするからである。希望者が多く、親子で楽しんでもらっている。
委員長 文化財課長 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎年、勾玉づくりなのか。 ○ 勾玉が多い。アクセサリーなので、女子が多いが、非常に好評である。 ○ 夏休みなので、充実した事業が多かったように思う。

7 議 事 の 大 要

委員長 委員長 全委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 9月定例岡山市教育委員会を開催する。 ○ 本日の傍聴希望者は1名。入室してもらってよいか。 <承認>
-------------------	---

委員長 全委員 委員長 全委員 委員長	○ 日程第1、会期は本日1日限りとしてよいか。 <承認>
	○ 日程第2、8月定例会の議事録に問題はないか。 <承認>
	○ 日程第3、教育長等の報告、事業報告について質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載)
委員長	○ 日程第4、第25号議案を説明願う。
文化財課長	○ 説明(第25号議案の資料に沿って説明)
委員長	○ 質問・意見はないか。
曾田委員	○ 亀山城跡について、浮田小学校の子どもたちや教職員は価値があるものだという こと、また、文化財に指定される可能性があることを知っているのか。
文化財課長	○ よく知っている。本丸・二の丸のある小学校から市道を挟んで右側の山は地域の 鎮守ということになっており、地域の方が亀山城跡の顕彰や保存に熱心である。 本丸周辺には宇喜多の旗印の旗が立っている。学校とも連結しており、旗は小学 校側にも立てられている。校長・PTAの方も小学校の中の三の丸も城の一部で あることは認識している。校長からも、文化財指定されれば、歓迎であるとい うことがコメントされている。
曾田委員	○ 岡山市には、文化財や誇れるもの、顕彰すべき先達の人がいるわけだから、学 校で色々な特色のあることをしていけば、新しいことをしなくても子どもは育っ ていくと思う。良い機会だ。
文化財課長	○ 授業の中でも折りに触れて裏山の由緒を子どもたちに教えている。指定になっ た契機にますます生きた教材として学校でも活用していただきたい。
教育長	○ 今日、決まれば地元へはどのように報告をするのか。
文化財課長	○ 公示し、指定書を発行する。まずは、学校と地域の代表者に一報を入れる。地 域としては大歓迎する準備ができている。地域のニュースとして広がっていくだ ろう。
委員長	○ 浮田小学校の名前は、宇喜田直家、宇喜多家と関係があるのか。
文化財課長	○ 厳密に言うと良くわからないが、亀山城の特徴として丘のまわりに湿地が広が っているという自然環境の部分と、瀬戸内市の邑久町から下克上で大きくなった 宇喜田直家と、どこかで微妙に絡み合い、小学校の名前に近づいたのではないか と思うが、地名の由緒は、はっきりとはわからない。いずれにしても、浮田学区 は、宇喜多直家がいた場所として地域のアイデンティティーになっている。
委員長	○ 先日、建部町文化センターのプールに行った際に、神輿が飾ってあり、これが 多自枯鴨神社の神輿ではないかと思ったが、そうなのか。
文化財課長	○ すでに県の無形文化財として指定されている「建部祭り」がある。旧建部地域 にある七社八幡宮というお宮が旧建部地域のお宮の合社(元締め的なお宮)にな っており、各村々にある7~8つのお宮の神輿が、祭りのクライマックスに七社 八幡宮に集まる。建部地域はそれぞれの村に鎮守のお宮があり、そこから神輿を 出す習慣があるので、多自枯鴨神社の神輿ではないことは確か。どこのお宮でも 神輿をもっているのがこの地域の特徴。
委員長	○ 神輿は地域の誇りということ。
文化財課長	○ 現在でも宗教活動として行われている部分もあるが、地域の年中行事として、 伝統行事として行われている。建部地域はお神輿祭りである。棒遣い、獅子舞な ど、建部は祭りにまつわる伝統文化が岡山市内でもよく残っている地域の一つで あると言える。その中の、物としての神輿が今回指定になる。
塩田委員	○ 市民が神輿を見ようと思えば見ることができるのか。
文化財課長	○ 文化財指定されても所有者の管理責任になる。所有者次第なので、責任をも ったことは言えないが、まとまって見たいということになれば、氏子は喜んで案内 してくれるのではないかと思う。市としては氏子に相談していただきたいというこ とになる。ただし、文化財指定されれば所有者はできるだけ公開する責任はある。 常時公開は理想的だが、所有者の事情もあるので、そのバランスの中で公開して いくことになる。
塩田委員	○ 神輿はすごくきれいで精巧なものなので、市のホームページでは公開してほし い。
文化財課長	○ そのつもりである。写真と解説をホームページに掲載する。
委員長	○ 第25号議案を原案どおり可決してよいか。
全委員	<承認>
委員長	○ 第25号議案を原案どおり可決する。
委員長	○ 第26号議案を説明願う。
保健体育課長	○ 説明(第26号議案の資料に沿って説明)。

委員長	○ 質問・意見はないか。
曾田委員	○ 25年度以降の学校給食の運営方針は、第3次という名前になるのか。
保健体育課長	○ 1次のときは、民間委託等の順番等を定めた中期計画があったが、2次以降は特につけていない。2次については、平成20年1月の提言に基づいて実施してきた。3次についても名称としては考えていない。
曾田委員	○ 25年度以降の運営方針という標題になるということによいか。
保健体育課長	○ そのとおりである。
塩田委員	○ 今日、新聞でマスカットが給食に出ていたというのを読んで、いいなと思ったが、民間委託の場合でも地産地消の工夫はされているのか。
保健体育課長	○ 昨日のニュースについては、市場がPRとして操南小学校の給食に提供したものの。学校給食の民間委託は、基本的に食材購入と献立については、市が直接するので、今までと変わらない。給食調理業務と床や食器の洗浄業務を委託しているのみである。
曾田委員	○ 民間委託の目標値は児童・生徒数で60パーセントであるが、学校の数でも変わらないのか。今、児童数の割合で52パーセントであるが、学校数で割合を出すと、全体の何パーセントになるのか。
保健体育課長	○ 学校数で言うと、127校分の68校で、50パーセントを超え、児童生徒数での割合と同じぐらいである。
曾田委員	○ 感想として、コスト削減のこともベースにあり、民間委託との拮抗した関係があるとしたら、児童生徒数の割合だけでなく、校数も関係してくるのかと思いを聞いた。
曾田委員	○ 色々な雇用形態を考えており、平成25年度以降も色々出てくるのではないかなと思うが、5時間パートの職員の導入を制度化したのはいつからか。
保健体育課長	○ 平成21年度に試行し、23年度から本格的に実施している。
曾田委員	○ パートの人を探す苦労はないのか。
保健体育課長	○ 教育委員会ではなく、学校現場で探してもらっている。特に人が見つからないということは聞いていない。
教育長	○ どんな形で雇用しているのか。
保健体育課長	○ 正規職員1人の代わりに2人の5時間勤務者を充てる。時間をずらして一番忙しい時間帯には2人重なるようにして効果的に充てる雇用形態。正規職員ではないので、人件費の削減になっている。
曾田委員	○ とても現実的で、隙間を埋める制度としたらありだろうと思うが、探すのが教育委員会ではないというのがとても困る。自分の経験でいうと、人材バンクでもあればともかく、パート職員が突然病気になったり、子どもの都合が悪くなったときに、あわてるのは学校や栄養士。雇用形態を制度として教育委員会が導入するのは必要だが、(人材バンクのような)何か工夫がないと、現場が困ることがあるのではないかなと思うが、担当課では何か困った話は聞いてないか。
保健体育課長	○ 完全に困っていないということは聞いていないが、今後、そのようなことが起これば検討しないといけないと思う。
曾田委員	○ 希望を言えば、再任用等のデータを持っているのは教育委員会。現場の忙しさの一旦を担っているのが管理職だ。栄養士など本来の食育や給食に係る業務ができず、毎日電話を掛けるなど、調整で苦労していることもあったので、制度の導入はともかく、その後のフォローがあっても良いのではないかなと思う。
委員長	○ 今日議決すべきは「運営方針(案)」によいか。その資料として添付されている「運営方針について」を見比べるとほとんど一緒だが、追記や削除がある。どういった趣旨か。
統括審議監	○ 平成24年8月8日に、教育委員会の附属機関である「学校給食運営検討委員会」で説明し、意見をもらい、検討委員会の意見をまとめたのが、「運営方針について」。その後、市民文教委員会で意見をもらい、「学校給食の運営方針(案)」を作成し、決定をいただくために諮っている。
委員長	○ 案の方では、2(1)「十分内容的に機能しているため平成20年1月の学校給食のありかたについて(提言)に基づき」の部分が削除されている。2の前段部分には「運営検討委員会の検討・評価を受けながら、次のとおり取り組み」が付け加わっている。2(3)では社会的評価に堪えるものにするためコスト削減に努め」が加わっているが、どういう意見を受け変えたのか何か趣旨があれば説明してほしい。
保健体育課長	○ 基本的には文言整理。改めて説明すべきものは説明し、補足があるものについては、補足説明を加え、書き直している。意見は意見として、それを市教委の方針としてやっていくという文章に書き改めた。
塩田委員	○ 確認だが、4つの評価項目は、1番に「食に関する指導の充実」「安全管理・

保健体育課長	衛生管理」「社会的要請に応えた学校給食」の3項目入っていて、2番に「効率的運営」の1項目入っているということが良いか。
教育長	○ 2番目の「効率的運営」は、前回の提言の中でも重要なものなので、項目として独立させてその説明をしている。
委員長	○ 本来は1つずつ記載した方が良いが、「食に関する指導の充実」「安全管理・衛生管理」「社会的要請に応えた学校給食」は今までと同じ意見だからまとめてしまっている。民間委託や職員の5時間パートの導入など効率的運営が一番必要。食に関する指導に含まれる地産地消の問題など、一つ一つは重要なものが入っているが、それらは、毎年同じような点検取組をおこなっているからだ。
教育長	○ 効率的運営という項目が、一番議論が多いからということが良いか。このような意見を踏まえて案を作成しているということ、今日議決すればどうなるのか。
委員長	○ この方針で進めていくということになる。
全委員	○ 第26号議案を原案どおり可決してよいか。
委員長	<承認>
	○ 第26号議案を原案どおり可決する。

傍 聴 の 状 況		
報	道	1 名
一	般	0 名